

園だより

第 5 号

平成 29 年 7 月 19 日



「段差」

園長 馬見 雅子

3月に卒園した子ども達が小学校に入学してからの近況を耳にすることがあります。そのどれもが「喜んで学校に行っています」「楽しんでます。」といった話で、嬉しく感じています。

幼稚園から小学校へと環境が変わり、学びの形も大きく変わることから、その接続を大切な時期と捉え、幼稚園・保育園・小学校の連携が進んでいます。幼・保・小連携会では、話し合い・講演会・見学などを通して互いの教育について理解し、**段差**を緩やかにして小学校生活へのスムーズな移行を図るようにしています。5月に行われた連携会の小学校の授業参観では、幼稚園でよく行われている子どもの視覚に訴え興味を引き付けるようにパペットを利用した指導なども見られました。また幼稚園では最上学年として小さい友達を気遣い、自分で考え行い、友達と共に力を合わせることもしてきた子ども達ですが、小さい1年生として上級生や先生方から優しくされ配慮してもらうことで、不安を解消し安心して小学校生活に慣れていけるのではないかと思います。

また、こんな話も耳にしました。好き嫌いが多く給食を心配していた子が、結構食べる事ができているとのこと。本人は「だって給食は食べなきゃだめでしょう？」といているのだそうです。子ども達は、思いのほかこの**段差**を受け止め、乗り越え、学校生活を楽しめるようになってい、むしろこの大きな**段差**が子どもを育てている面もあるのではないかと考えさせられました。とすると、幼稚園時代には、この段差を乗り越えていけるような心・たくましさ是非とも育てていきたいと感じます。

幼稚園では、1学期一番小さなあか組の子ども達が大きな**段差**を乗り越え、社会生活に一歩足を踏み出しました。自分のことを少しずつ自分で行い、友達と共に生活することを知り、園生活を楽しくめるようになってきました。みどり組・あお組の子ども達もそれぞれの**段差**を乗り越えています。幼稚園では生活全てが学びです。自然に豊かさや厳しさを教えてもらい、様々な小さな**段差**（環境の変化や大変だなと思うことなど）を乗り越える経験をし、自分自身の思いや考えを出して遊びや生活を楽しみ、友達と共に楽しく生活することを知ることが、大きな**段差**をも乗り越える力・たくましさに繋がっていくものと考えます。周りの大人は、受け止め・見守り、時に励まし・諭し、知恵を授け、共に楽しみながら、子ども達を支えていきたいものです。